

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年 6月 1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300068
法人名	株式会社 セカンドライフ
事業所名	グループホーム西南
所在地	〒893-0042 鹿児島県鹿屋市池園町2297-7 (電話) 0994-34-1008
自己評価作成日	平成26年6月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年6月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園が広がり、自然豊かな環境の中に当ホームはあります。1棟が開設6年目、2棟が5年目を迎え地域のかたがたにも認識されてきたと思います。当ホームの理念は「笑顔の絶えない毎日を。貴方と、家族と、私達と、地域と共に。」を掲げ、理念に沿ったサービス提供を目指しています。まだまだ理想とするホームにはほど遠いですが、スタッフ一人ひとりが考え、模索し、少しでもそれに近づこうと努力している現状です。地域密着型サービスの意味を踏まえ、地域の中に根ざして行きたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・ホームは、緑広がる風光明媚な場所に位置しており、それぞれのユニットの玄関先には、毎年ツバメが巣作りし子育てする様を利用者が毎日気使いツバメの成長を楽しみするなどごく普通の日常の生活の風景が広がっている。
- ・地域とは、保育園や小学校の子供たちとのふれあいや中学校の職場体験、ボランティア活動への協力、知人や地域の方からの差し入れなど日常的にあり、地域にとけこみ地域住民との関係性が深まるよう積極的に交流している。
- ・ホームの代表、管理者、職員は、利用者や家族、地域住民、民生委員、行政などの関係者と連絡や連携を大切に互いに情報交換する場を活用したり、面談や電話などで、利用者が地域で自分らしく安心して暮らせるよう支援している。
- ・代表者や管理者は、職員のスキルアップを図るため、勉強会や研修会への参加を勧めるとともに資格取得にも理解を示すなど職員教育にも尽力している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者に対し、自分達はどうありたいか？どうあるべきか？又、どう支援していきたいかを考え現在の理念を掲げている。職員会議等にて繰り返し考え、実践している。	開設当初からのホームの理念を、玄関や共有スペース、スタッフルームなどに掲示し、朝礼や職員会議などを通じて管理者や職員一人ひとりが理念を理解共有し、日々の中で話し合い、より良いサービスの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会長をはじめ、保育園、小学校、中学校との交流、地元消防団の避難訓練参加等 地域の方々にお世話になっている。これからも、地域住民との関わりを大事にしていきたい。	町内会に加入し、可能な限り地域の行事へ参加したり、保育園、小学生とのふれあいの時間、中学校の職場体験、ボランティアの受け入れなど地域との交流は積極的に実施している。また、家族や住民からの差し入れや、気軽に訪問していただけるよう誠心誠意対応している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	ホーム開設7年目に入り、地域の方々からの相談や空き情報の問い合わせが多くなっている。見学等もその都度対応、状況伺いアドバイスや他施設の空き情報等伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状、生活状況や事故報告、家族会、行政関係の報告。ホームが抱えている問題や改善事項に関し、助言を頂いている。	会議は定例化しており、事業所からの報告とともに、メンバーからの意見や質問、要望など受け、サービス内容や事業所運営について協力者として助言をもらう場になっている。また、そこでの意見はサービスの見直しや改善につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会を通じ、市担当者・包括支援センタースタッフにホームの運営状況や利用者の生活状況報告している。指導やアドバイスを受けながら協力関係の構築に努めている。	市担当者や包括職員には運営推進会議への出席や日々様々な関わりの中で、利用者の暮らしぶりや具体的なサービスの必要性など伝え、連携を深めている。また、福祉事務所担当者にも面談などで情報交換し協力体制ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム自体の拘束廃止委員会規定を作成し、拘束における弊害等定期的に勉強会のテーマに上げている。我が親、自分自身におきかえ日々のケアを行っている。開設してから拘束を実施したケースはない。	一人ひとりのその日の気分や状態をすべての職員がキャッチし、外出傾向の利用者に対しては、さりげなく声かけしたり一緒についていくなど安全面に配慮して鍵をかけず自由な暮らしを支援している。職員は、言葉の拘束など勉強会で学びケース検討を実施して、身体拘束をしない取り組みについて家族や関係者などにも理解が得られるよう務めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会参加や職場内研修にて、あってはならない事として繰り返し学んでいる。今後も定期的に議題として取り上げ、虐待防止への意識を維持し取り組んでいきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市社会福祉協議会の地域福祉権利擁護事業を活用している。スタッフも外部研修にて学ぶ機会があり、正しい知識のもと利用者の支援が出来るよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の相談、入居時と、時間をかけ説明している。介護保険の改正時等も家族会や個別に説明行い、理解・納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から、利用者・家族が意見や不満等なんでも言える関係作りに努めている。運営推進会、家族会、玄関にはご意見箱を設置し環境づくりに努めている。出された意見は、職員会議等にてスタッフに周知し反映させている。	利用者、家族とは、日頃から何でも意見が言える関係性を心がけており、出された意見や要望などは、職員会議や家族会などで話し合っている。また、遠方の家族などには、電話や手紙で意見をもらい、運営推進会議で報告して関係者からの意見やアドバイスなど運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ自身の自己評価や個別の面談を行い一人ひとりの意見や要望等を聞き、アドバイスや助言を行い反映させている。毎日のミーティングやその都度、何か気付いたら声をかけるように心がけている。	代表者は、年1回職員との個人面談を実施して、職員の意見を聞く機会を設けたり、意見や要望などを言いやすくする工夫をして職員との信頼関係を深め、日頃もその都度意見交換ができるよう努めている。職員の意見は、ミーティングなどで取り上げサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援や定期的な面接を行い、スタッフの意見や悩み等を聞いている。当然のことだが資格取得後には手当の支給、個々のスキルアップにつながるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム協議会や行政主催の研修に積極的に参加している。スタッフ自信が専門職として自信とやりがいを持てるように支援している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH協議会に加入。研修等を通じ、他施設との交流する機会が年間を通じ多々である。又、管理者はGH協議会の理事を請けており、同業者との情報交換（飲み会）等交流も多い。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境での生活による精神的な不安や戸惑いを理解し、入居前の面接を時間を書け行っている。その上でホーム見学に来てもらい、その状況を見ながら、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談より、家族がどのような想いでいるのか不安や戸惑い等理解するためにも十分な時間をかけ話を伺っている。精神的な不安を軽減し今後の関係につながるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や見学時から、本人に何が必要か、家族が何を望んでいるかを引き出し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと利用者ではなく、一つの家族として接することが理想であり、実現できるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への入居前の面談にて、家族の支え、協力等必要性を話している。面会時には、生活状況を報告し、たりない部分へのアドバイスやサポートを頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや自宅帰省等の支援は行っているが、ADLの低下や本人の意欲の減退 理由は様々だが機会が減ってきている。	利用者のこれまでのなじみの人との関係性を断ち切ることがないように、電話や手紙でのやりとりや訪問者の受け入れなどに対応するなど配慮している。また、毎日近隣を散歩したりドライブや、墓参りに同行するなどして本人のなじみの場所が記憶として残る工夫を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが全員と向き合えるようレクや活動等の工夫はしているがなかなかである。馴染めない方には個別にスタッフがより多く関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もホームとしてできる事、協力できることは率先している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の業務の中で、何を望んでいるか？何を思っているか？考え接している。利用者とのふれあいを大切にしている。又、家族への聞き取り等 面会時に話している。	管理者や職員は、日々のケアの中で本人が本当に望むことや真意などについて表情やしぐさ、行動や会話、家族からの情報などで汲み取り本人の思いに心を寄せ、スタッフ会議や担当者会議などで話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴、性格、趣味嗜好等家族からの情報と、日々接する中で一人ひとりを把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人ができる事、出来ないこと、必要としていることを把握・見極め、可能性を考え、その人らしく過ごせるように模索している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望、家族へ生活状況説明、要望を伺っている。職員会にてその人に何が必要か？スタッフと検討し計画を作成している。	地域でその人らしく暮らしていくために、現状に即した介護計画を作成し、3カ月に1回のモニタリング、半年に1回又は随時の見直しやカンファレンスなど開催し、チームで話し合い、家族に理解を求め情報を共有するなどして、本人が安心して自分らしく暮らしていけるよう計画し実践している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートにて情報の共有に努めている。ミーティング、職員会にて話し合い介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や行政関係の申請・手続き、日用品の買い物、自宅帰省の送迎等 家族の状況に配慮し支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園、小学校との交流会や行事の参加、地元消防団の避難訓練参加、ボランティアの慰問等地域資源の一端を担い、利用者の方に暮らしの中で地域とのよい関係作りに努力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を踏まえ、かかりつけ医への定期的な受診を行っている。また、訪問看護との医療連携により、病の早期発見・受診につながっており、適切な医療連携を整えている。	日常は、職員が病院受診を支援しているが、緊急時は家族にも同行を依頼している。主治医は、本人や家族が希望する医療機関であるが、協力医療機関の24時間の往診や訪問看護、訪問歯科診療などの協力体制を構築し、利用者や家族には安心感を担保している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約。20年11月より週1にて訪問看護、月1回Dr訪問診療の体制である。毎回、同じ看護師が来てくださり、スタッフ・利用者共に馴染みの関係が形成されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療相談員や病院関係者と連携を図り、本人・家族をサポート。入院中も面会を重ね入院生活におけるダメージの軽減に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を聞き、ホームでどこまで出来るかをスタッフと検討、医療関係を含め今後の対応方針を決めている。利用者・家族の意向に最後まで支援していく。	入所時に重度化や見取りに向けた説明を文書でおこない、説明し同意を得ている。実際に重度化した場合など段階に応じて、ホームでできる医療行為についても十分な説明をおこない家族に理解を図り、医療機関や関係者と連携を密にして本人が安心して暮らしている最善の策をチームで検討し話し合い、本人や家族の意向を踏まえ、随時意思確認をおこないながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については内部研修等にて繰り返し連絡網の確認や、応急処置・対応について学んでいる。普通救命士の講習にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を年2回行っている。1回は地元消防団も参加していただき、もしもに備えホームの建物の構造や利用者の状態等把握してもらっている。職員会にて、忘れた頃に消防設備の取り扱い等繰り返し学んでいる。</p>	<p>ホームは、夜間想定避難訓練を年2回実施し、隣家には地域の消防分団員も居住している。訓練には、町内会長も参加し、実際の災害発生時は地域住民の協力体制もある。電磁調理器具を採用、暴風対策に強化ガラスを取り入れソーラーパネルにて蓄電もしている。また、米や高カロリー食、菓子類など備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まず言葉使い。仕事に慣れてきたり、信頼関係が成り立ってくると言葉使いが乱れがちである。利用者と介護職としての関係を忘れないよう職員会や朝礼にて繰り返し話をしている。	年長者に対して敬意を払い、馴れ合いや言葉使いや態度が失礼にならないよう定期的な勉強会や研修にて自己研鑽している。特に排泄や入浴など身体介護の場面などでは、プライバシーや人格に配慮してケアするよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	具体的に例をあげ、思いを自己決定できるように支援している。利用者から何でも言ってもらえる信頼関係を築くことが出来るよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースにあわせ支援したいが、スタッフの都合にて希望に添えないことも多い。一人ひとりの生活リズム、ペースを大切にし、希望に添えるように努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洋服選びが可能な方には、一緒に買い物に同行してもらい選んでもらっている。要望があれば髪を染めたりその人らしさを大事にしていきたい。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段はモヤシの根切りや野菜の下ごしらえ。季節により竹の子やツツの皮むき、切り干し大根作り。可能な方にはお茶をついでもらったり、お盆・台拭き等手伝ってもらっている。	家族や隣家から新鮮野菜などの差し入れは常時あり、家庭菜園で採れるピーマン、ナス、ミニトマト、ピーナツなどが食卓を賑わせている。高菜漬け、切干大根は自家製で、外食もいきつけの店があり出かけている。また、能力に応じて料理の下ごしらえや準備をお手伝いしてもらっており、職員も一緒に食卓を囲んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立、一人ひとりの状態にあった量・好き嫌い・食事形態等考慮している。特に水分摂取量は注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに関しては、係りを決め実施し、チェック表にて忘れの無いようにしている。又、年1回訪問歯科診療の検診。必要な方は訪問歯科利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン・排泄量等 把握に努め支援している。トイレ誘導・介助、オムツの種類、Pトイレの活用等 検討し安易なオムツ使用を行っていない。	排泄のリズムを排泄チェック表などで把握し、できるだけトイレで気持ちよく排泄して、安易にオムツに排泄することがないように排泄のサインを見逃さず、手助けしている。また、鈴を活用して終了の合図を確認し、介助などしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関し、運動や水分 食材の工夫を行っている。しかし改善できない方は、主治医に相談し内服にて管理する方もおられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	正月元旦以外は毎日が入浴日である。利用者は大概一日おきが基本であるが、希望にて続けて入浴や足浴される方もおられる。入浴時間が15時からとなっており希望に添えているかは？	代表者は、現場経験を踏まえて認知症高齢者の入浴の時間は夕方以降の時間がベターではないかとの検討を重ね、現在入浴支援しているが、本人の状態を勘案して必要がある場合などはこの限りではなくタイミングをみて個別支援を行うなど随時入浴を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けておらず、本人のペースにて就眠されている。22時過ぎてもテレビを見ている方も。安眠に関しては日中から生活リズムを考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルしており、内服変更の際は都度口頭や申し送りノート・日誌にて情報を共有している。誤薬や薬の弊害 副作用等注意している。痛み止めや下剤等 定期薬以外の使用の際は必ず管理者に報告してから使用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・干し、行事（そば打ち、餅つき等）食事の準備等できることにて自分の役割を感じてもらえるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や畑を見に行ったり買い物やドライブ散歩 個人によっては墓参りや自宅帰省の送迎行っている。高齢化や状態レベルの低下により希望も少なくなっている。	毎日、職員と近隣の散歩に行ったり、ドライブがてらショッピングを楽しんだり、家族と外出して帰宅や墓参りして外の雰囲気を楽しんでいる。利用者は、年々重度化しており、本人が外出を拒むケースも増えてきているが、利用者の意思確認を十分におこない、できる限り地域と交流できるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>数人、少しであるが自分でお金を管理されている。買い物に一緒行ったり、ほしい物を頼まれお金を渡される程度である。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族へ電話の希望があればその都度連絡を取っている。長く面会のないときや家族と話をされたい様子見られたら、こちらから電話を促している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>台所はオープンになっており、調理をする音や匂い。玄関やホールには季節ごとに飾りを替えて季節感を取り入れている。トイレは尿臭がしないよう努めている。</p>	<p>玄関には、紫陽花の花が活けてあり、天井が高く開放的で圧迫感がない。壁面には、所狭しと利用者や職員の作品や写真が掲示され、写真入りの職員紹介もある。オープンキッチンで調理のいい匂いが漂い、利用者と職員の生活の様子がつぶさに見てとれる。ソファがあちらこちらに置いてあり、好きな場所でゆっくりと過ごすことができるよう工夫されている。また、トイレや居室のポータブルトイレの清潔に気をつけており、臭いも気にならない。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テラスやリビング・ローカ・玄関にソファや椅子を置き、ゆっくり過ごせる空間になっていると思う。利用者は気の合った同士で話をしたり、一人でゆっくり過ごされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に家族に、使い慣れた物品について説明している。数人だが家族の写真を持ってきて飾ったり遺影を持ってこられたりしている。</p>	<p>電動式ベット、洗面台、整理タンス、エアコン、寒暖計、一部トイレが完備され、サッシの施錠はダイヤル式鍵になっている。遺影、家族の写真、人形、ぬいぐるみなど本人の使い馴染んだ物など持ち込み、居室で生花を愛で楽しんでいる方もいる。ホームは安全な生活環境を利用者の状態に応じて整備し、随時検討しつつ支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ローカやトイレ、居室入り口等手すりを設置し 自立支援・危険防止の設計はしてあるが一人ひとりに合わせたものではない。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない